荒尾市立府本小学校　校長便り　№86

# みんなの居場所

**裏面の話題**

**みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。**

令和8年3月23日(月)

## 1年間ありがとうございました

「みんなの居場所」の発行も、今年度最後を迎えました。反響を頂く度に感謝の気持ちで一杯です。読者の皆様のお話によると、最も反響が大きいコーナーはシリーズ自分を語る」だそうですね。その中でも、病気やケガの話題に読者が多く、もっと病気ケガについて書いてくれと言われます。面白いのは分かるのですが、私もそんなに病気やケガばかりしていたら体がもちませんから。でもまぁ、あと少しはありますが…。

この1年間にも、多くの通知文が国や県から出され、子ども達の行事や学習活動に影響を与えました。そのような中で、子ども達、保護者の皆様、地域の皆様、学校職員、全ての人達が「自分達に何ができるか?」を問うて、多くの行事を実施できたことも、このような状況だからこそ経験できたことなのだと噛み締めています。

今年度は子ども達はともかく、保護者の皆様と接する場面は少なかったのですが、運動会や授業参観等、節目節目にお声かけ頂き、とても嬉しくお思いました。お陰様で、学習効果の大きい行事や実施可能な行事は、「どうすれば実施可能なのか?」を考え、しっかりと実施してきました。その中で、多くの保護者の皆様と接することができました。

年度末、3月7日にはPTA主催「親子でチャレンジ強歩会」が実施され、多くの保護者の皆様とお話しすることができました。

私はやって良かったと多くの行事を振り返り、来年度も何か新しいことにチャレンジしていこうと考えています。府本小や府本小校区を盛り上げていくために何ができるか?これからも保護者の皆様のアイデアをお寄せください。私は皆様とお話しすることが大好きです。来年度はぜひ気軽に校長室にお越しください。待っています。　拝。

## 【独り言】「歩行運動について」

2005年、第2回の本屋大賞に選ばれた恩田陸さんの「夜のピクニック」を読まれただろうか。先日行われた強歩会と内容がダブる物語だ。文中に「みんなで、夜歩く。たったそれだけのことなのにね。どうして、それだけのことが、こんなに特別なんだろうね。」という言葉がある。まさに強歩会参加者が感じたことと思う。この物語は高校の恒例行事「歩行祭」で80㎞を24時間かけて歩くというものである。単純だけどそれによる達成感や感動はお金では買えない。

この「歩く」という単純な動作、どうも個人差があり、体調や歩行姿勢、精神的な要素も影響を与えるらしい。私自身何度も強歩会を経験したが、毎回痛む場所や痛みの程度に差がある。また、コース（歩道）の状況によっても影響が出る。今年の強歩会はコースに恵まれた。私は足腰に我慢できないような痛みは発生しなかった。スタート直後から姿勢に注意して、急発進急停止はできるだけしないようにし、靴の表面が足全体にフィットするように、靴の紐を強く締めて歩いた。更には、休憩を極力減らし、休憩場所ではすべて直立の姿勢だった。この方法が良いかどうかは別として、私には合っていたようだ。例年、強歩会完歩後、立ち止まると筋肉が強張り、一度座ると痛みで立ち上がれなくなることもしばしばだった。今年それが無いのは、前述の取組が奏功したのではないかと思う。また、小負荷の運動を継続していたことで、心身の持久力も上がっていたのではないかと思う。トレーニングを続ければ「夜のピクニック」の80㎞も夢ではないように思う。

こうして考えてみると「歩行」はただ歩くだけとは言えないようだ。基本運動であるだけに、今後も定期的に小負荷の歩行を続け、健康維持に努めていきたい。

## シリーズ「自分を語る」#86

その年の6月、韓国の研修員チェさんを受け入れて、生活が軌道に乗ったと思ったら、次は海外技術研修員の受け入れです。というか、既に手続きに入っておりました。研修員の受け入れに向けて何をしなければならないかは、何となく分っていましたが、この研修制度で受け入れる人数は5名、しかも国籍がバラバラです。どうなることやら…。

先ずは熊本県人会がある各国へ募集要項を発出します。覚えている範囲で国を紹介しますと、ブラジル、ペルー、タイ、カンボジア、中国、韓国、メキシコでした。各国から研修員の申し込みがあり、一覧表を作って、電話面接、研修員決定、受け入れ、生活マネジメント、帰国…、その全ての元締めが私澤田でした。大変ですよ、まったく…。まず、電話面接です。県人会がある国や国際課の通訳が間に入ってくれる場合は、苦になりません。大変だったのはタイとカンボジアでした。先ずは、その概要です。

タイからいきましょう。タイからの研修員は農業研修希望でした。農業の研修?といわれても…ですが、取り敢えず関係団体をチェックしました。「NPO法人れんげ国際ボランティア会」、「タイ谷口農場」が関係団体です。更に、研修員のバックグラウンドには、熊本出身の農業技術者、谷口巳三郎氏が関係していました。実はこの方、道徳の本「くまもとの心」でも取り上げられている方です。タイ北部で農業指導や人材育成に尽力した方でした。過去形でお話ししたのは、2011年におしくなったからです。タイの若者が貧困や失業、知識不足などによって犯罪が連鎖的に起こっていた現状を憂い、県職員からタイへ移住し、一生を捧げた人だと聞いています。実は私、国際課時代一度お会いしました。私にも優しくお声かけ頂いたことを思い出します。

さて、タイ谷口農場に電話をかけて研修員と面談です。皆様のご想像通り、日本語は通じませんので、谷口農場の派遣担当者と日本語での話に終始しました。国際課職員のアドバイスもあり、「NPO法人れんげ国際ボランティア会」で受け入れが可能だということで、研修員として決定しました。「NPO法人れんげ国際ボランティア会」はどこかで聞いたことがある方もいるかもしれません。そう、蓮華院誕生寺と関連があるのです。私達はれんげ農園と呼んでいましたが、この会が運営する農業研修施設での受け入れとなりました。研修員の名前は「キティサック・セーラオ」さんです。何でも、タイでは本名で呼ぶことは殆どなく、ニックネームで呼ぶそうです。この研修員は自己紹介の時こう言いました。「ワタシノナマエハキティサック・セーラオデス。ロン、トヨンデクダサイ。」えっ、名前ニックネームが全然違うじゃん…と思いながらも、これが文化だ、と言い聞かせ、無理やり納得しました。ロンさんは研修員の中で最も若く、研修を楽しんでいました。彼はれんげ農場に住み込みで研修することになりました。暑い国からの研修員なので、エアコンも殆ど使わず、研修を終えていきます。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）